

経営比較分析表（平成30年度決算）

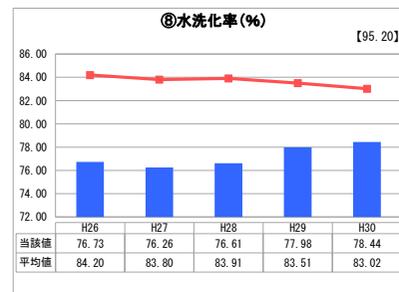
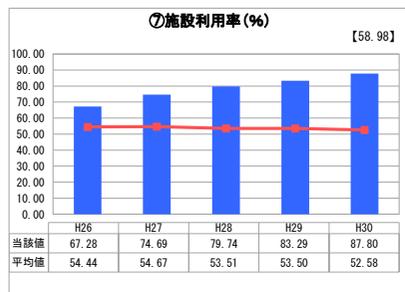
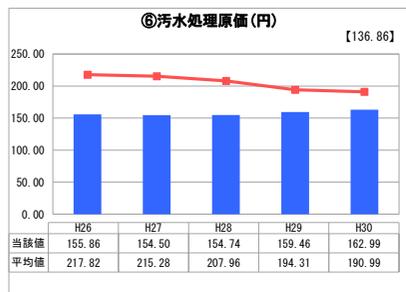
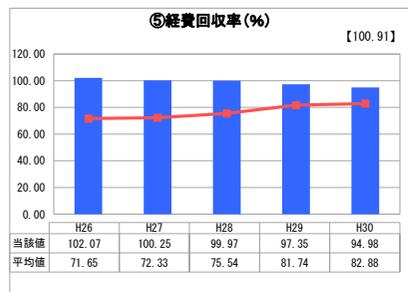
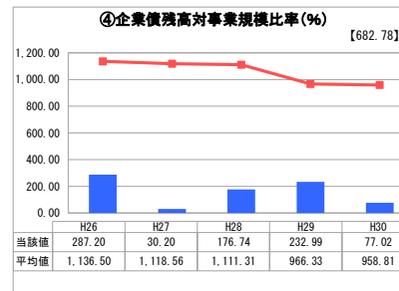
岡山県 井原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	49.95	70.31	2,689

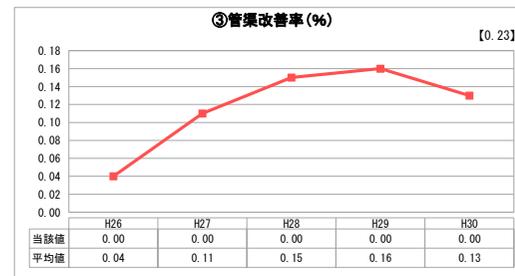
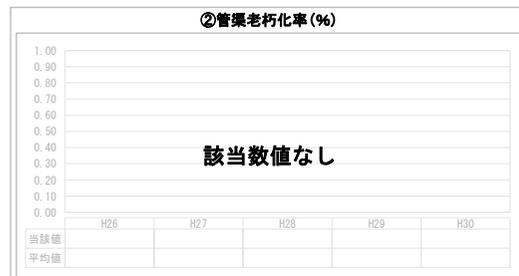
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
40,639	243.54	166.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
20,178	6.90	2,924.35

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は、過去数年においても横ばいの状況で、100%を割り込んでいる。使用料収入が順調に増加傾向にあるものの、依然として企業債の利払い負担が収益圧迫要因となっている。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均値と比較して良好な状態にある。直近2～3年で微増傾向にあったが、昨年度は減少しており、料金収入の増加等による財源確保が影響している。引き続き、料金収入等の財源を確保し、当該数値をできる限り抑制する必要がある。

⑤経費回収率は、概ね100%で推移している。使用料収入が順調に増加傾向にあるため、引き続き、汚水処理費の抑制に努める。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値と比較し、費用が安価であるが、今後も引き続き、汚水処理費用の抑制を図る。

⑦施設利用率は、類似団体平均値を上回っており、効率的な稼働を行っているが、供用開始区域の拡大により、年々増加傾向にある。現在は、処理水量の増加に対応すべく、施設の増設を推進している。

⑧水洗化率は、類似団体平均を下回っている。下水道の整備途中段階であるものの、水洗化率向上のために、未接続家庭への積極的な下水道接続の推進を図る。

2. 老朽化の状況について

平成元年度供用開始して以来、既設管渠の事故等はないものの、地震等の災害を想定して、計画的に更新していく必要がある。

施設・管渠の老朽化や耐震対策等について、計画的な更新を実施すべく、ストックマネジメント事業を活用して、管渠・マンホール点検診断を実施中である。

全体総括

計画的な管路整備を行い、供用開始区域が年々、拡大している。引き続き整備を計画的に推進するとともに、ストックマネジメント計画に基づいて、老朽施設・管渠の計画的な改築・更新を実施する。
また、経費削減を継続的に行うとともに、下水道接続の推進を行うなど、財源確保に努め、経営の安定化を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（平成30年度決算）

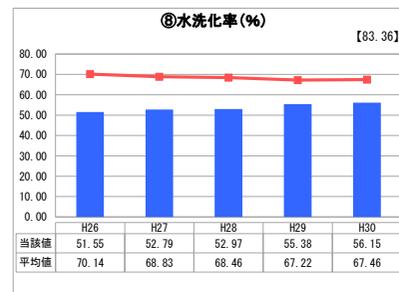
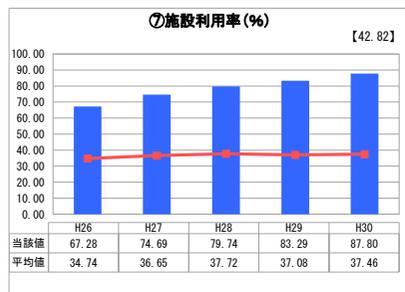
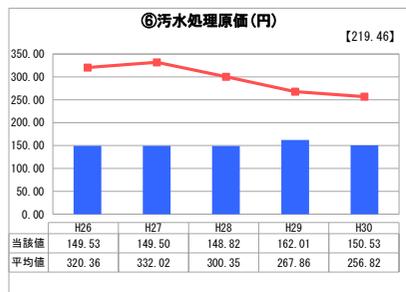
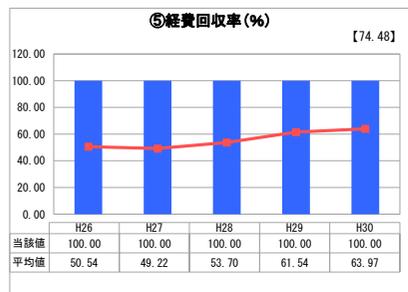
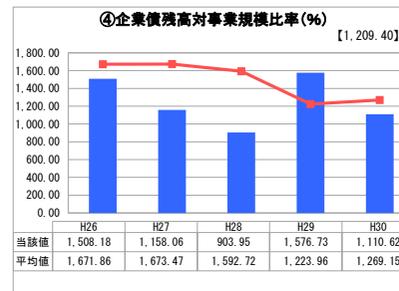
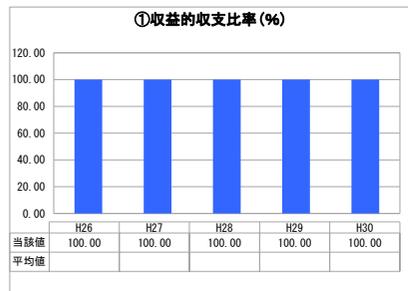
岡山県 井原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	4.27	3.31	2,689

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
40,639	243.54	166.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,724	0.59	2,922.03

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は100%で推移している。使用料収入が順調に増加しているが、繰入金ばかりに頼らず、使用料収入により100%を維持できるよう、料金改定等の検討が必要である。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均値と比較すれば良好な状態にある。企業債残高は減少傾向にはあるが、引き続き、料金収入等の財源を確保し、当該数値をできる限り抑制する必要がある。

⑤経費回収率は、100%で推移している。使用料収入が順調に増加傾向にあるため、引き続き、汚水処理費の抑制に努める。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値と比較し、費用が安価であるが、今後も引き続き、汚水処理費用の抑制を図る。

⑦施設利用率は、類似団体平均値を上回っており、効率的な稼働を行っているが、供用開始区域の拡大により、年々増加傾向にある。現在は処理水量の増加に対応すべく、施設の増設を推進している。

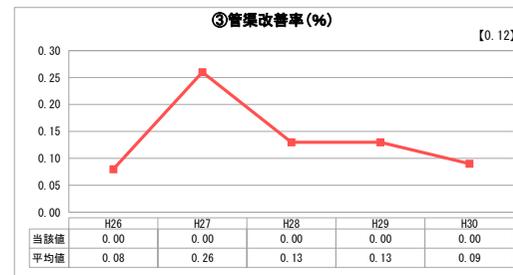
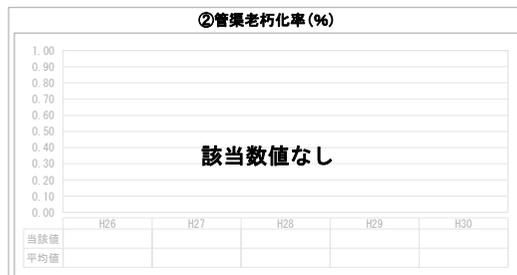
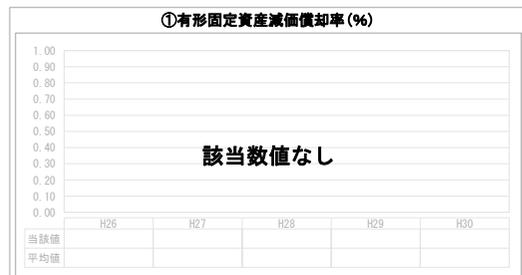
⑧水洗化率は、類似団体平均値を下回っている。下水道の整備途中段階であるものの、水洗化率向上のために、未接続家庭への積極的な下水道接続の推進を図る。

2. 老朽化の状況について

管渠設備が新しいため、直近での老朽化対策は必要ないと思われる。しかし、今後の老朽化等の対策は必要となってくるため、地震等の災害を想定して、計画的に更新していく必要がある。

施設・管渠の老朽化・耐震対策等について、計画的な更新を実施していく。

2. 老朽化の状況



全体総括

計画的な管路整備を行い、供用開始区域が年々、拡大している。引き続き整備を計画的に推進するとともに、ストックマネジメント計画に基づいて、老朽施設・管渠の計画的な改築・更新を実施する。また、経費削減を継続的に行うとともに、下水道接続の推進を行うなど、財源確保に努め、経営の安定化を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。